

水資源・環境学会第5代会長就任にあたって

奥田進一（拓殖大学教授・環境法）

このたび第4代会長の仲上健一先生の後任として、第5代会長に就任しました。本会草創期に青春を謳歌していた世代ですが、草創期に掲げられた課題や使命を意識して、温故知新の視点を常に持って本会の発展に貢献したいと考えます。

1987年の本学会誌創刊号の「創刊の辞」において、初代会長の板橋郁夫先生が、「水を研究の対象としている人は、各専門の研究機関や、あるいは、一般企業や市民団体の中にも、数多くおられるが、同一のテーブルについて討論することは、これまで機会が少なかった。」と述べられています。そこから40年近い歳月が流れ、本学会は、「ある水問題」を軸として同一のテーブルにおいて、様々な分野の研究者や市民がその知見を方円の器に従うがごとくに披露し、理論と実践を進展させてきたといえます。

しかし、水問題はその後の環境問題の多様化と深化とあいまって、学問的には鋭角に専門特化し、他方で実務的には分野を横断した連携が必要になってきたように感じます。本学会は、多種多様な分野の研究者と実務家、さらには水問題に関心を持って活動しておられる市民の方が自由に参加する場であり、理論と実践の乖離を防ぎ、むしろ両者を結合させるという使命を帯びております。その使命は、今後ますます社会に希求されることでしょう。

水問題に関心を有する多くの皆様にとって、本学会がオアシスとなり、飲泉場となり、そして高尚な井戸端会議の場となるような環境整備に努力してまいります。引き続きご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。